

2013 年新春

2013 年 新年を迎えて

C E M A

会長 木下真生

皆さま、新年明けましておめでとうございます。日本塗装機械工業会（COATING EQUIPMENT MANUFACTURERS ASSOCIATION、CEMA）の7代目会長を仰せつかって昨年6月より務めさせていただいております木下です。本年もよろしくお願い致します。

3ヶ年の民主党政権が迷走の結果自壊し、旧来の保守政党である自民党が政権の座に復活。さまざまな景気浮揚対策、通貨対策、対外外交施策、更には自衛隊を国防軍と呼び変えるなどのスローガンが華々しく掲げられていますが、我々国民の一人一人が、この政党を再選択した結果責任を負うという強い自覚のもとに、しっかりと一つひとつの政策実行をWATCHしてゆく義務ありと思います。

思えばバブル（1989～1991の4.3カ年、51ヶ月）がはじけ、1989年の暮れの大納会で日経平均終値38,915円を付けたのをピークとして、それからはつるべ落としに株は（そして土地も）下落の一途をたどり、現在は当時の3分の1ぐらいのところを低迷中。平成はこのバブルの絶頂期からどん底へ。そして‘失われた10年’を経て現在にいたっているわけであります。またその間には阪神大震災（1995年1月17日）、そのあとにはリーマンショック（2008年9月）、そしてそのあとにまたこれでもかと襲った東日本大震災（2011年3月11日）。まさに国を人に例えるなら、この約20年間日本国は厄年、または厄年期間に入っているのではないと思われるような状況であります。まさに国難の時。神社仏閣が国の隅々まで数多く存在するわけですから、昔のごとく国を挙げて国難払い、厄払いの国民レベルでの祈祷をしたらどうかと半分以上本気で思う今日このごろです。今年こそ厄が明けて、新生日本として力強い日本国再生が始まることを願わずには居られません。

さてそのような厳しい流れの中で、CEMAとしてはどのような活動を展開してゆくのか、ということですが、昨年は工業塗装高度化協議会（会長 山崎秀雄氏、工塗連会長、会員団体：工業塗装連合協同組合（工塗連）、パウダー協（渡辺忠彦理事長）、そしてCEMAの3団体）が経済産業省に根気よく働きかけを続け、4月に中小企業の物作り技術の発展を国が後押しする、戦略的基礎技術高度化支援事業の対象産業に認定されるという、塗装産業に携わる人たちにとっては大きな朗報があったわけです。この認定はある意味では画期的なものであり、この認定を受けるに至るまでの関係諸氏のご苦勞は山崎会長をはじめとして 皆をバックアップして下さった

東京都の産業技術センターの木下稔夫先生、を含め並みの物ではなかったと思います。

この認定のための作業に関わった皆さんのお話を伺いましたが 国レベルでも‘塗装’という産業、仕事に関しての理解が当初は十分にあったとは言えず、塗装という仕事の中身を説明し、それがいかに深い技術を伴った重要な産業であるかを理解してもらうのにかなりの時間が必要であったということでした。

それは裏を返せば塗装産業に携わる我々の外に向けての塗装産業を理解していただくための啓蒙に対するの努力が今まで十分になされてきていなかったということでもあるのではないかと思います。塗装産業がなければもの作りは成り立ちません。そういう意味では塗装は、重要なもの作りのための基幹インフラ産業と言えます。それは塗装産業に携わっている人たちには当たり前、常識、的なものであっても、世の中、世間、ましてや一般の人たちにとってどうであるかといえば、塗装イコール 3K（臭い、汚い、危険）というネガティブイメージそのもの、そしてそれ以上の理解はされていないということではないのかということです。

C E M Aは塗装、それも広義の意味での塗装および塗装産業に関連している企業体の集まりです。そういう意味では、塗装および塗装産業の中身、内容、重要性をもっと広く世の中の人たちに知っていただくための活動をしやすい立ち位置にいるのではないかと思います。今までもし、横の連携をベースにした‘塗装と塗装産業のイメージアップ’に関する活動が十分にかつ息が長い形で行われてきていなかったとするなら、何らかの形で横の連携、塗装関連の団体がアライアンスを組んで、世の中、世間一般の人たちに塗装と塗装産業をよりよく知っていただくための啓蒙活動を始めるきっかけをC E M Aが作れば、と思っています。C E M A内部にもやることは山のようにありますが、上記述べたようなことを始めるきっかけだけでも今年作ることができればいいなと思ったりしています。なにをどう始めたらいいいのか全く今のところ五里霧中の状態ですが、‘意志あれば道あり’の言葉を信じて走り出してみたいと思います。皆さまのご理解とご協力が得られれば幸いです。それでは本年が日本国の‘厄明け’で今年からどんどんいい方向に物事は運んでゆくことを祈って、また皆さまのご健康と会社の繁栄を祈って新年のご挨拶といたします。